

令和 1年 7月10日

(公社)埼玉県介護老人保健施設協会
 会長 小川郁男 様

施設名 介護老人保健施設 あねとす
 氏名 長谷川 大和

研修会報告書

研修会名	令和元年 第1回 『多職種によるチームアプローチ研修』			
日 時	令和元年 7月 5日 (金) 10:00~16:00(受付9:30~)			
会 場	埼玉県県民活動センター セミナーホール1			
講 師	杉長 彬 氏 リハビリコミュニケーション研究所 作業療法士			
参加人数	44名/定員60名			
研修委員 (氏名・施設名)	渡辺 清光(大宮ナーシングピア) 吉田 真由美(あさひヶ丘) 富上 雅樹(ケアセンター八潮)	江村 泰亮(かわぐちナーシングホーム) 紫葉 美和子(ぼっかぼか) 長谷川 大和(あねとす)		
研修会のテーマ	もっと報・連・相(報告・連絡・相談)をしたくなるコミュニケーションのコツ			
研修会の評価	アンケート回収枚数	44 枚	3. グループワーク	
	1. 研修内容と目的の一致	4.1 / 5	4. 研修会の進め方	
	2. 講義に対する評価	①	4 / 5	~総合評価点~
		②	/ 5	
③		/ 5		
④		/ 5		
			4.3 / 5 4.4 / 5 17 / 20	
総 評	(研修会開催後の反省会での内容や研修委員としての感想等を記述)			
	・今回は、講師に杉長彬先生をお招きし、「なぜ多職種連携は難しいのか?」「職場のコミュニケーションバリアを探る」「3つのコミュニケーションタイプから見る人間関係」「職種間の対立はなぜ起こる?」「価値観の違う人との意見のすり合わせ方」の5つの内容について講義をしていただいた。			
	・看護・介護・リハ・介護支援専門員・相談員と幅広い職種の参加があった。研修は、プロジェクターを使用しての講義後に2人組・4人組でのグループワークを行い、自分の抱えている問題や相手の抱えている問題を互いに伝え合い、そのことについてグループ内で共有をした。			
	・1人の利用者に対しての援助方法は多様であり、多職種間で同じ時間を共有していない為に誤解が生じたり(言った言わない)、業務多忙で言葉数も少なくなることもある。その様な中でも冷静に丁寧に説明すること。また、言葉から想像するイメージは人によって異なる為、相手が視覚・聴覚・身体感覚のどこを重視しているかを把握し、臨機応変に相手のタイプに合わせ、伝えていくことを今回の研修で学んだ。			
	・利用者の人生の場面に合わせた支援をしていくためには、様々な専門職が連携し合い協力していくことが必要となる。専門性があるからこそ意見の相違が生じるが、利用者のことを第一に考え、まずは自ら相手に合わせ今回学んだモデルを使用し多職種と関わり活かしていこうと思った。			

*アンケート結果の詳細については、別紙添付資料「研修会アンケートのまとめ」を参照。